令和3年度新SBIR制度加速事業（フェーズ1） 所見

対象施策	評価項目	委員の所見 （優れた点や改善を要する点など）
【JST】 大学発新産業創出プログラム（START）プロジェクト推進型（SBIRフェーズ1支援）	1. 計画に示した取組の着実な実施	・この短期間に59件という応募で、採択が21件、フェーズ2に相当する事業への申請を予定している課題が17件という数字は評価していい。それぞれの取り組みも見たが、堅実な研究開発の内容で素晴らしいと思う。 ・より基礎研究に近い、グローバルな「発展形」につながる案件もより多く必要な印象もある。各省庁のテーマそのもののビジョンとスケールにおいて大きなものが、今後のプロジェクトの成果のためには必要か。 ・数値目標に対しても着実な進捗を示した点を高く評価。個別の案件の質、ポテンシャルも高い。今後においても応募の件数、質を担保できるかは確認事項。 ・設定されている50件の応募目標が他PJとの相対性が無いため難易度設定理解に苦慮するところだが、自身の経験上、非常に高い目標ではないと思慮。通過PJのクオリティに関しては、投資家目線では通過数を半分以下まで下げると考えるが、SBIRの性質、テーマ元の評価から一定以上の成果であったと考える。オフィシャルに設定されている評価基準を参照するとBとA境目であり結果、Aと判断。
	2. 取組の効果	・アンケート調査の満足度の高さは印象的だが、これが事務局のハンズオンによるものなのか、あるいは、SBIRという新しい政策フレームワークへの期待の高さゆえなのか？ ・フェーズ1といえども、顧客の視点を取り込みながらPOCへ繋げるべき。採択案件中、どのような基準でフェーズ2に進むべき案件を峻別しているのかの情報が必要。フェーズ2に採択される案件に関しては、プロジェクトの夢の大きさからのバックキャスティングも取り込み評価する方が良い。 ・省庁のニーズを背景として開発課題の優先順位の調整がなされるなど、技術と応用の懸け橋となれる可能性を示した。フェーズ2への進展可能性のある案件が生まれているのも評価したい。研究開発期間は課題であるが、制約条件の中で最大限の努力がなされている。 ・研究開発目標達成：達成率は達成目標難易度と相関するため評価が難しいが内容をすべて読んだうえでB。採択者の起業見込み：起業することだけ、を指標とすればA。質まで加えるとB。満足度：研究開発期間はJST起因ではない要件であり、その他要素としてはA。総合としてBとした。
	3. 事業体系の構築	・多くの府省をまたぐ委員会をこれほど早く構築し、情報共有を図りながら事業を進めたことは高く評価したい。 ・一年目でもあり、期待を「大きく上回る」のかの判断は困難。 ・PMとの連携を意識した支援委員会などの事業体制を構築し、事業推進スケジュールに基づき、堅実な運用を行っていた点を評価。 ・事業運営状況については不足なく、SBIRへの高いコミットメントを感じることができた。ソーシング、選定、支援、全体を通じで一定の高いレベルを有しており、特にフェーズ2への接続を目的とした具体的なアクションも実現されている点を評価。初年度であることから案件数が限定的であったが、日本国のSBIRの成功のためにはより多くの案件数が必要であると考えられることから、より高い案件数目標を実行される体制が証明された際にSとされるべし、と考えA。
	4.「指定補助金等の交付等に関する指針」の実施	・指針に基づいた適切な運用がされている。またそれぞれの指針に基づいて具体的な改善、実行が行われていた。 ・指定補助金等の交付等に関する指針をすべて読んだうえで、全て定性的評価項目であり、指針項目の達成率で評価するのであれば、すべて達成されてしかるべきと言えるため当該項目の最大評価はBであろうと判断した。指針に対して不足は何らなかった。

令和3年度新SBIR制度加速事業（フェーズ1） 所見

対象施策	評価項目	委員の所見 （優れた点や改善を要する点など）
【NEDO】 研究開発型スタートアップ支援事業（SBIR推進プログラム）	1. 計画に示した取組の着実な実施	・NEDOの取り組みの説明は、提出された資料の情報量が限定的でその分評価を低めにせざるを得なかった。当日の担当者とのやりとりではいくつかの大きな疑問は解消できたが、それでもフェーズ2に進むことを前提にどのようなやりとりを研究開発の担当者となされてきたのか、まだ疑問は残る。 ・PRISM対象という制約の影響もあるだろうが、応募件数を増やすことが可能であれば良い。やはり、POCが大切なフェーズではあるが、潜在市場につながるビジョン、とりわけグローバルな展開形の案件につながることが望ましい。各省庁のテーマが、大きなグローバルなマーケットスペースにつながる可能性を秘めるものであれば望ましい。 ・革新的であると認められる研究開発であると同時に、フェーズを進んでいけるポテンシャルの高い取り組みを選択できているか。一定の明確な指針が必要である可能性はある。 ・開示されている情報がJSTに対して非常に限定的であるため、各社名から独自調査した成果となるが、革新的研究開発を目標とすると不足を感じる。一方で、件数の少なさは当初より予算額上の想定の範囲内であるため目標に対しての達成どは一定あると思慮。よってB。
	2. 取組の効果	・資料の記載情報やヒアリングからも、NEDOのカタライザーとしての取り組みが少し後手に回ったという印象を受けた。おそらく、研究開発から事業化に至るサポートをより組織的に行う必要があるのではないか。 ・時間が限られた初年度における成果としては評価できるが、本年度の評価としては辛口のBとしておきたい。 ・課題設定機関からのサポートを期待する声があるとのことであるが、将来的にフェーズ2などへの接続を意識した公募が出来ていくのであれば、可能性を感じる。 ・開示されている情報が限定できであるため、自己評価をそのまま評価するに留まる。記載内容が正であればA。一方で潜在性を判断すること、を目標とするのであれば母集団は少なすぎると考えられる。よってB。
	3. 事業体系の構築	・府省横断的なリーダーシップを構築するに至っていないと思われる。これは、事業取り組みの時間的制約が大きいとは思うが、JSTの事業との比較で見劣りする。また、今後の評価体制についても一段の努力が必要ではないか。 ・事業接続が充分にされていたのかどうかは大きな課題。PRISMとの接続が困難であったのか。制約条件を鑑みると、最大限の努力が払われている印象がある。 ・事業体系に関しては、目標設定内容がファジーであるためJSTとの相対比較とした。説明内容および自己評価に準じCとした。
	4.「指定補助金等の交付等に関する指針」の実施	・指針に基づいた運用が堅実に行われている印象がある。 ・JSTと同様の視点で考察をした。その結果、達成項目数の観点からCとした。